

厚生労働科学研究費補助金
効果的医療技術の確立推進臨床研究事業

膵癌に対する新しい補助化学療法に関する研究

平成 15 年度 総括研究報告書

主任研究者 小菅智男

平成 16 (2004) 年 4 月

目 次

I.総括研究報告書	
膵癌に対する新しい補助化学療法に関する研究	1
II.研究成果の刊行に関する一覧表	13
III.研究成果の刊行物・別刷	18

膵癌に対する新しい補助化学療法に関する研究

主任研究者 小菅智男 国立がんセンター中央病院 部長

研究要旨

予後不良な膵癌切除症例に対するゲムシタビンを用いた術後補助化学療法の有用性を検討するために、全国 10 施設による多施設共同無作為化比較試験を計画した。試験の概要は次の通りである。対象：浸潤性膵管癌の肉眼的治癒切除症例。比較条件：術後補助化学療法の有無。化学療法の方法：ゲムシタビン 1000mg/m²を週 1 回 3 週連続で経静脈的に投与し、1 週休止するのを 1 コースとして 3 コース行う。前層別因子：施設、進行度、根治度。主要評価項目：生存期間、無再発期間。副次的評価項目：化学療法に関連した有害事象。平成 13 年度中に研究実施要綱の策定を行い、平成 14 年度から各施設倫理審査委員会の承認を得たのちに症例の登録を開始した。平成 16 年 3 月 24 日までに 80 例の症例が登録された。

分担研究者

松野正紀	東北大学大学院医学系研究科 教授
羽鳥隆	東京女子医科大学 准講師
山本順司	癌研究会附属病院 副部長
中尾昭公	名古屋大学大学院医学系研究科 教授
今村正之	京都大学大学院医学研究科 教授
門田守人	大阪大学大学院医学系研究科 教授
田代征記	徳島大学医学部 教授
田中雅夫	九州大学大学院医学研究院 教授
金光敬一郎	熊本大学医学部 講師
松山裕	東京大学大学院医学系研究科 助教授
上野秀樹	国立がんセンター中央病院 医員

A.研究目的

膵癌は早期診断の困難な疾患であり、今日でも切除率は低く、また切除された例でも遠隔成績は不良である。膵癌による死亡数は年々増加しており、有効な治療法を確立することは国民的な課題である。これまで、切除可能症例に対しては、手術療法に化学療法や放射線療法などの補助療法を加えた集学的治療が試みられてきた。しかし、膵癌切除例を対象として行われた補助療法の無作為化比較試験は少なく、その結果は一定していない。アメリカでは 1985 年に GITSG による多施設共同無作為化比較試験の結果、外照射と 5-FU による放射線化学療法が膵癌治癒切除例に対する補助療法として有効とされ、以後これが膵癌切除例に対する標準治療とされてきた。しかし、最近、ヨーロッパで 2 つの大規模な国際共同研究が行われ、どちらも放射線化学療法の有効性を確認できなかった。一方、化学療法単独の補助療法に関する多施設共同無作為化比較試験は 1993 年に AMF 療法を用いてノルウェーで行われたものが報告されたのみであり、しかもその結果はあいまい

なものであった。したがって、現時点では、膵癌の切除例に対して標準とするべき補助療法は確立していないといえる。

一方、切除不能な膵癌に対する化学療法では、近年、塩酸ゲムシタピン（以下ゲムシタピン）が注目を集めている。ゲムシタピンは代謝拮抗剤に分類される抗悪性腫瘍剤であり、細胞内で三リン酸化物に代謝され、DNA合成を阻害することによって固形がんに対する殺細胞効果を発揮する。米国およびカナダで実施された第Ⅲ相無作為化比較試験では、ゲムシタピンによる症状緩和効果が5-FUより有意に高率であることが示され、また、生存期間の延長に関してもゲムシタピンのほうが優れていると結論付けられた。米国ではこうした成績をもとにして1996年に進行膵癌に対する適応が承認され、本邦でも2001年4月から膵癌に対する適応が認められた。

以上のように、ゲムシタピンは効果ばかりでなく副作用の面でもこれまで標準的に用いられてきたフルオロウラシルよりも優れており、侵襲の大きな膵癌切除手術後に併用する補助化学療法剤として有望な薬剤と考えられる。そこで、本剤を用いた術後補助化学療法の有用性を評価するための臨床試験を計画した。

B. 研究方法

膵癌切除例に対するゲムシタピンを用いた術後補助化学療法の有用性を明らかにするため、肉眼的治癒切除が行われた浸潤性膵管癌の症例で安全性を維持するために設けられた基準を満たしたものを対象として、補助化学療法の有無による治療成績の比較を行う。過去に行われた研究の結果から、単施設での症例集積は困難と予想されるため、多施設共同研究とし、試験の方法は、最も信頼性が高いとされる無作為化比較試験とする。症例の登録は、術後3週から10週の間登録条件が満たされていることを確認した上で行う。治療成績に影響を及ぼす可能性が高い、施設・腫瘍の進行度・手術の根治度の3要素について偏りが生じないよ

う、これらを前層別因子として動的割付けによる無作為化を行う。主要評価項目は、登録時点からの生存期間および無再発期間とし、補助化学療法による有害事象を副次的評価項目とする。補助化学療法としては、ゲムシタピン 1000mg/m²を1週間に一度ずつ3週連続で経静脈的に投与し、1週休止するのを1コースとし、合計で3コース行うこととする。倫理面の配慮として、研究対象者には研究の具体的内容、予想される利益と不利益、研究への参加や同意の撤回に関する自由、人権の擁護、費用の負担などについて詳細に説明した文書を渡した上で口頭による説明を行い、文書による同意を得ることとする。また、それぞれの研究実施施設において倫理審査委員会に研究実施要綱を提出し、その承認を得ることを必須とする。

C. 研究結果

平成13年度は、臨床試験を具体的に進めるための準備として、本研究への参加が可能であった全国の主要な膵癌治療医療機関10施設、臨床統計家、モニタリング委員会から構成される研究組織を整え、上記の研究方法に基づいた具体的な研究実施要綱の策定、および症例登録センターの設置を行った。策定した研究実施要綱は、症例登録を予定する10施設でそれぞれの施設倫理審査委員会に提出し、研究の承認を申請した。

平成14年6月までに参加10施設中9施設で承認が得られ、症例の登録を開始した。平成15年7月には最後の1施設でも承認が得られた。平成16年3月24日までに80例が登録された。この1年間には50例を超える登録があり、平成16年度中には目標症例数の登録が完了する見込みである。

D. 考察

本研究では、2年生存率に約20%以上の差があった場合の検出力を80%に設定して予定症例数を100例とした。したがって、微小な差は検出できないという問題がある。しかし、過去に行われた様々

な研究の結果から、これ以上の症例数を集積するのが困難であることは明らかであり、また、膵癌の一般的な予後を考慮した場合に、微小な効果では臨床的な意義が少ないことなどから現実的な値として設定した。ゲムシタビンの投与方法は標準的な治療投与方法に従った。投与回数の設定については、十分な効果を得るために長期に投与方法も議論されたが、無効な場合、術後生存期間は短いことが予想されるため、補助療法の期間としては3カ月程度が妥当であるとの結論に至った。本研究の結果、最終的にゲムシタビンによる補助化学療法の有用性が証明されれば、難治がんの代表的存在である膵癌の切除症例に対して初めて標準的な治療を確立する契機になる。逆に有用性が証明されなければ、効果の少ない治療を行うことによる患者の不利益と医療経済上の不利益を避けることができる。試験のデザインや倫理的な配慮について、世界的に通用する水準の研究実施要綱と研究組織が完成した。当初の予定よりはやや遅れてはいるものの、症例の集積は順調に進んでおり、平成16年度中には目標症例数に到達する見通しが立った。全体として研究は比較的順調に進展している。

E. 結論

研究実施要綱の策定から施設倫理委員会の承認を経て症例管理センターに症例を登録するという多施設共同研究の各段階は手順を踏んで実行できた。症例の集積も順調に進んでおり、本試験を完遂できる目処が立った。客観的な評価を行うことが難しいと考えられてきた膵癌の補助化学療法に関しても、きちんとしたエビデンスを得ることができることを示すことができた。

F. 健康危険情報

本年度は健康危険に関する情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

外国語論文

- 1) Shimamura T, Kosuge T, et al. Dysadherin overexpression in pancreatic ductal adenocarcinoma reflects tumor aggressiveness: Relationship to e-cadherin expression. *J Clin Oncol* 21:659-667, 2003.
- 2) Nunobe S, Kosuge T, et al. Clear cell endocrine tumor of the pancreas which is not associated with von hippel-lindau disease: Report of a case. *Surgery Today* 33:470-474, 2003.
- 3) Q.Xiong H, Kosuge T, et al. Report of the 16th international symposium of the foundation for promotion of cancer research: Recent advances in pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol* 33:246-253, 2003.
- 4) Yano Y, Kosuge T, et al. Combined hepatocellular and cholangiocarcinoma: a clinicopathologic study of 26 resected cases. *Jpn J Clin Oncol* 6:283-287, 2003.
- 5) Duda D, Matsuno S, et al. Restoration of SMAD4 by gene therapy reverses the invasive phenotype in pancreatic adenocarcinoma cells. *Oncogene* 22:6857-6864, 2003.
- 6) Furukawa T, Matsuno S, et al. Potential tumor suppressive pathway involving DUSP6/MKP-3 in pancreatic cancer. *Am J Pathol* 162:1807-1815, 2003.
- 7) Lefter LP, Matsuno S, et al. Inserting chromosome 18 into pancreatic cancer cells switches them to a dormant metastatic phenotype. *Clin Cancer Res* 9:5044-5052, 2003.
- 8) Nakao A. Debate: extended resection for pancreatic cancer; the affirmative case. *J HBP Surg* 10:57-60, 2003.
- 9) Koizumi M, Imamura M, et al. Increased PDX-1 expression is associated with outcome in patients with pancreatic cancer. *Surgery* 134:260-266, 2003.
- 10) Tsujie M, Monden M, et al. Thiazolidinediones

- inhibit growth of gastrointestinal, biliary, and pancreatic adenocarcinoma cells through activation of the peroxisome proliferator-activated receptor γ /retinoid X receptor α pathway. *Exp Cell Res* 289:143-151, 2003.
- 11) Tsujie M, Monden M, et al. Growth inhibition of pancreatic cancer cells through activation of peroxisome proliferator-activated receptor γ /retinoid X receptor α pathway. *Int J Oncol* 23:325-331, 2003.
 - 12) Okami J, Monden M, et al. An immunohistochemical study of Cyclooxygenase(COX)-2 expression in endocrine tumors of the pancreas. *J Exp Clin Cancer Res* 21:569-576, 2003.
 - 13) Okami J, Monden M, et al. Suppression of pancreatic cancer cell invasion by a cyclooxygenase2-specific inhibitor. *Clin Exp Metastasis* 20:577-584, 2003.
 - 14) Okami J, Monden M, et al. Patterns of regional lymph node involvement in intrahepatic cholangiocarcinoma of the left lobe. *J Gastrointest Surg* 7:850-856, 2003.
 - 15) Taniguchi M, Monden M, et al. Parenteral nutrition decreases hepatic dihydropyrimidine dehydrogenase activity and modulates catabolism of 5-fluorouracil in rats. *In Vivo* 17:219-224, 2003.
 - 16) Yamamoto S, Monden M, et al. Monden M. Expression of UDP-N-acetyl-D-galactosamine: Polypeptide N-acetylgalactosaminyl transferase-3 (GalNAc-T3) in adenocarcinoma of the pancreas. *Pathobiology* 71:12-18, 2004.
 - 17) Hayashi H, Monden M, et al. The association with expression levels of CA19-9 and N-acetylglucosamine- β 1,3-galactosyltransferase 5 (β 3Gal-T5) gene in human pancreatic cancer tissue. *Pathobiology* 71:26-34, 2004.
 - 18) Miho Kurahashi, Tashiro S, et al. Changes of lymphatic flow in case of pancreatic duct obstruction in the pig -as a model of pancreatic cancer-. *The Journal of Medical Investigation* 51:70-75, 2004.
 - 19) Qian LW, Tanaka M, et al. Co-cultivation of pancreatic cancer cells with orthotopic tumor-derived fibroblasts: fibroblasts stimulate tumor cell invasion via HGF secretion whereas cancer cells exert a minor regulative effect on fibroblasts HGF production. *Cancer Letters* 190:105-112, 2003.
 - 20) Qian LW, Tanaka M, et al. Radiation stimulates HGF receptor/c-Met expression that leads to amplifying cellular response to HGF stimulation via upregulated receptor tyrosine phosphorylation and map kinase activity in pancreatic cancer cells. *Int J Cancer* 104:542-549, 2003.
 - 21) Ohtsuka T, Tanaka M, et al. Comparison of quality of life after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy and Whipple resection. *Hepatogastroenterology* 50:846-850, 2003.
 - 22) Manabe T, Tanaka M, et al. Cell-based protein delivery system for the inhibition of the growth of pancreatic cancer: NK4 gene-transduced oral mucosal epithelial cell sheet. *Clin Cancer Res* 9:3158-3166, 2003.
 - 23) Toyonaga T, Tanaka M, et al. Blockade of constitutively activated Janus kinase/signal transducer and activator of transcription-3 pathway inhibits growth of human pancreatic cancer. *Cancer Letters* 201:107-116, 2003.
 - 24) Inoue K, Tanaka M, et al. Severe localized stenosis and marked dilatation of the main pancreatic duct are indicators of pancreatic cancer instead of chronic pancreatitis on endoscopic retrograde balloon

- pancreatography. *astrointest Endosc* 58:510-515, 2003.
- 25) Okino H, Tanaka M, et al. Trans-tissue, sustained release of gemcitabine from photocured gelatin gel inhibits the growth of heterotopic human pancreatic tumor in nude mice. *Clin Cancer Res* 9:5786-5793, 2003.
- 26) Yamaguchi K, Tanaka M, et al. Appleby operation for pancreatic body-tail carcinoma: report of three cases. *Surgery Today* 33:873-878, 2003.
- 27) Kanemitsu K, et al. Implication of Micrometastases of Lymph Nodes in Patients With Extended Operation for Pancreatic Cancer. *Pancreas* 26:315-321, 2003.
- 28) Morizane C, Ueno H, et al. Phase II study of cisplatin, epirubicin, and continuous-infusion 5-fluorouracil for advanced biliary tract cancer. *Oncology* 64:475-476, 2003.
- 29) Tokuuye K, Ueno H, et al. Small-field radiotherapy in combination with concomitant chemotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma. *Radiother Oncol* 67:327-330, 2003.
- 日本語論文
- 1) 小菅智男, 他. 手術方針についてのエビデンス: 胆嚢癌手術における胆管切除の意義. *外科* 65:411-414, 2003.
- 2) 小菅智男, 他. 膵癌の集学的治療-臨床試験による評価-. *肝胆膵* 46:761-766, 2003.
- 3) 小菅智男, 他. 補助療法の考え方. *臨床外科* 58:1505-1508, 2003.
- 4) 小菅智男, 他. 補助化学療法: 膵癌術後全身補助化学療法. *外科* 65:1275-1278, 2003.
- 5) 小菅智男, 他. 通常型膵癌の進展度診断と術式決定-外科の要求. *消化器画像* 5:649-652, 2003.
- 6) 小菅智男, 他. 膵癌に対する集学的治療. *外科治療* 90:299-302, 2004.
- 7) 小菅智男: 切除可能膵癌に対する補助化学療法. 戸田剛太郎, 沖田極, 松野正紀, 井廻道夫, 河田純男, 熊田博光, 小菅智男, 幕内雅敏, 門田守人編. *肝・胆・膵疾患の最新医療*. 先端医療技術研究所, 東京, pp362-367, 2003.
- 8) 江川新一, 松野正紀, 他. わが国の現況-全国膵癌登録から-. *臨床外科* 58:1455-1461, 2003.
- 9) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵癌外科治療の現状とゲノム情報に基づく補助療法への展望. *胆と膵* 24:349-354, 2003.
- 10) 福山尚治, 松野正紀, 他. 膵臓疾患の腹腔鏡下治療. *臨床消化器内科* 18:705-710, 2003.
- 11) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵癌に対する化学療法レジメン-単独および放射線照射療法-. *臨床外科* 58:1075-1080, 2003.
- 12) 江川新一, 松野正紀, 他. 膵癌の集学的治療. *医学と薬学* :412-420, 2003.
- 13) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵癌に対する化学療法. *癌と化学療法* 30:1901-1908, 2003.
- 14) 元井冬彦, 松野正紀, 他. 膵癌に対する手術適応の再考と新しい治療法の開発. *外科* 65:669-674, 2003.
- 15) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵癌補助療法の現状と将来. *外科治療* 89:345-346, 2003.
- 16) 網倉克巳, 松野正紀, 他. 膵癌. 後藤由夫編. *コメディカルのための臨床薬学*. 医薬ジャーナル, 東京, pp456-460, 2003.
- 17) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵頭十二指腸切除における門脈合併切除・再建-直接吻合とグラフト再建. *手術* 57:557-532, 2003.
- 18) 羽鳥 隆, 他. 嚢胞性膵腫瘍の進展度診断と術式決定-外科の要求. *消化器画像* 5:661-673, 2003.
- 19) 羽鳥 隆, 他. 腹側膵切除術の適応と術式. *外科* 65:1656-1660, 2003.
- 20) 今泉俊秀, 羽鳥 隆, 他. 膵管内乳頭腫瘍・嚢胞性膵腫瘍. 跡見 裕, 炭山嘉伸, 門田守人編. *消化器外科学レビュー* 2003. 総合医学社,

- 東京, pp253-261, 2003.
- 21) 羽鳥 隆, 他: 膵癌の悪性度と予後について. 木村 健, 藤盛孝博, 加藤 洋編. 消化器病のサーベイランス. 新興医学出版社, 東京, pp270-277, 2003.
 - 22) 越川克巳, 中尾昭公, 他. 高齢者の肝胆膵疾患診療の進歩-膵癌-. 老年消化器病 15:43-50, 2003.
 - 23) 金子哲也, 中尾昭公, 他. 門脈血管内超音波による膵癌の診断. 消化器内視鏡 15:703-709, 2003.
 - 24) 中尾昭公, 他. 門脈血管合併切除を伴う膵頭十二指腸切除術. 消化器外科 26:1741-1749, 2003.
 - 25) 中尾昭公, 他. 門脈血管合併切除を伴う膵頭十二指腸切除術. 消化器外科 26:1741-1749, 2003.
 - 26) 土井隆一郎, 今村正之, 他. 膵内分泌腫瘍(診断から治療まで). 日本内科学会雑誌 92:45-51, 2003.
 - 27) 今村正之, 他. 膵温存十二指腸全摘術の適応と術式. 外科 65:1667-1670, 2003.
 - 28) 土井隆一郎, 今村正之, 他. 消化器腫瘍治療における PET の実際-膵腫瘍を中心に. 癌治療と宿主 15:49-57, 2003.
 - 29) 土井隆一郎, 今村正之, 他. 膵癌の放射線化学療法と外科切除-多施設共同無作為化臨床試験より. 胆と膵 24:655-660, 2003.
 - 30) 辻江正徳, 門田守人, 他. Gemcitabine 投与により肝転移が消失した膵癌術後肝転移再発の1例. 癌と化学療法 30:297-301, 2003.
 - 31) 永野浩昭, 門田守人, 他. 消化器癌に対する化学療法. 癌と化学療法 30:1895-1990, 2003.
 - 32) 中森正二, 門田守人, 他. 切除不能・再発膵癌に対する Gemcitabine と UFT 併用療法の第I相試験. 癌と化学療法 31:51-54, 2004.
 - 33) 宮本英典, 田代征記, 他. 当科における Stage IV b 膵癌の治療成績. 四国医学雑誌 59:30-34, 2003.
 - 34) 上野秀樹, 他. 肝内胆管癌, 化学療法の現状. 肝胆膵 46:603-607, 2003.
 - 35) 上野秀樹. 切除不能・再発膵癌の化学療法. コンセンサス癌治療 2:32-35, 2003.
2. 学会発表
国際学会
 - 1) Egawa S, Matsuno S, et al. Pancreatic cancer registry in Japan. 第16回癌研究振興財団国際シンポジウム, 2003/1, 東京.
 - 2) Egawa S, Matsuno S, et al. Pancreatic cancer registry. 20-years of Japanese experience and the development of an international documentation system for pancreatic neoplasms. Pancreas Club, 2003/5, オランダ.
 - 3) Lefter L P, Matsuno S, et al. Targeting multiple biological pathways in the downstream of Ets-1 efficiently suppresses tumorigenesis in two pancreatic cancer models. American Society of Clinical Oncology, 2003/6, シカゴ.
 - 4) Sunamura M, Matsuno S, et al. Dominant-negative form of ETS-1 efficiently suppresses tumor angiogenesis in pancreatic cancer. Euroconferences: Angiogenesis 2, 2003/6, パリ.
 - 5) Matsuno S, et al. Pancreatic cancer registry in Japan. 61st Congress of Polish Association of Surgeons, 2003/9, Gdansk.
 - 6) Fujii T, Nakao A, et al. Surgical management of intraductal papillary mucinous tumor of the pancreas. 13th World Congress of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists, 2003/12, Estoril.
 - 7) Takeda S, Nakao A, et al. The indications for adjuvant 5-fluorouracil liver perfusion chemotherapy via the portal vein in pancreatic cancer. 13th World Congress of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists, 2003/12, Estoril.

- 8) Nakao A. Extensive or limited resection: the rationale (Pancreatic resection for cancer). 13th World Congress of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists, 2003/12, Estoril.
- 9) Nakao A. Extended pancreatico-duodenectomy ("How do I do" Pancreatic resection). 13th World Congress of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists, 2003/12, Estoril.
- 10) Nakao A. Isolated PpPD for Pancreatic Head Cancer. 7th Biennial Congress of ASHBPS and 2nd Biennial Congress of Indian Section of IHPBA, 2003/8, Chennai.
- 11) Nakao A. Vascular Resections in HPB Surgery. 7th Biennial Congress of ASHBPS and 2nd Biennial Congress of Indian Section of IHPBA, 2003/8, Chennai.
- 12) Nakao A. Oncological Problems in Pancreatic Cancer Surgery. 7th Biennial Congress of ASHBPS and 2nd Biennial Congress of Indian Section of IHPBA, 2003/8, Chennai.
- 13) Nakao A. The role of extensive surgery for pancreatic cancer. 7th Biennial Congress of ASHBPS and 2nd Biennial Congress of Indian Section of IHPBA, 2003/8, Chennai.
- 14) Yamamoto S, Monden M., et al. Increased expression of valosin containing protein (VCP : p97), a member of the ATPase, is associated with lymph node metastasis in pancreatic adenocarcinoma. XIII International Symposium of the Hiroshima Cancer Seminar., 2003/10, Hiroshima.
- 15) Maeda E, Monden M., et al. The 7th Annual International Conference on Research in Computational Molecular Biology (RECOMB) – 2003. Kernel based supervised learning for cancer phenotype prediction and gene selection., 2003/4, Berlin.
- 16) Maeda E, Monden M., et al. Statistical evaluation of supervised learning and gene selection algorithms for cancer-class prediction using gene expression data. Intelligent Systems for Molecular Biology (ISMB) –2003, 2003/6, Brisbane.
- 17) Hata T, Monden M., et al. High incidence of asymptomatic pulmonary embolism (PE) after surgery for gastrointestinal (GI) malignancies. 39th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology., 2003/5, Chicago.
- 18) Ueno H., et al. The efficacy, toxicity and pharmacokinetic findings of S-1 in patient (pts) with advanced biliary tract cancer (BTC): A phase II trial. ECCO, 2003/9, Copenhagen.
- 19) Okusaka T, Ueno H., et al. Phase II study of radiotherapy combined with gemcitabine for locally advanced pancreatic cancer. 2004 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2004/1, San Francisco.
- 20) Ikeda M, Ueno H., et al. A phase II trial of continuous-infusion 5-fluorouracil, mitomycin and cisplatin for metastatic hepatocellular carcinoma. 2004 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2004/1, San Francisco.

国内学会

- 1) 小菅智男, 他. 肝葉切除を中心とした肝門部胆管癌の治療成績(国際シンポジウム). 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌市.
- 2) 佐野力, 小菅智男, 他. 閉塞性黄疸で発症した胆嚢癌に対する拡大右葉切除、尾状葉切除、肝外胆管切除(ビデオセッション). 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌市.
- 3) 江崎稔, 小菅智男, 他. 胆管侵襲を伴う肝細胞癌切除例の臨床病理学的検討(ポスターセッション). 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌市.

- 4) 小菅智男, 座長：一般演題 ポスタ 化学療法2. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 5) 小菅智男, 他. 胆嚢癌手術における肝外胆管切除(パネルディスカッション). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 6) 島田和明, 小菅智男, 他. 肝左三区域切除の検討(ポスター). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 7) 佐野力, 小菅智男, 他. 大腸癌肝転移切除後の長期予後-10年生存例の検討-(一般演題). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 8) 江崎稔, 小菅智男, 他. 肝胆膵外科領域のクリニカルパスの有用性(ワークショップ). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 9) 小出紀正, 小菅智男, 他. リンパ節転移切除後に5年生存した肝内胆管癌の2例(ポスター). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 10) 布部創也, 小菅智男, 他. 消化管間葉系腫瘍肝転移に対する肝切除例の検討(ポスター). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 11) 小林荘一, 小菅智男, 他. 胆道癌肝転移再発切除例9例の検討(ポスター). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 12) 李宗雨, 小菅智男, 他. 十二指腸乳頭部腫瘍に対する乳頭部切除術(ポスター). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 13) 羽藤慎二, 小菅智男, 他. 膵頭十二指腸切除における膵腸吻合合法別ドレーンアミラーゼ値に関する検討(一般演題). 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 14) 上原圭介, 小菅智男, 他. 若年者肝細胞癌切除症例の臨床病理学的検討. 第58回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 15) 松倉聡 山本順司, 小菅智男, 他. 大腸癌肝転移の切除後、10年以上長期生存例からの知見と予後因子の検討(パネルディスカッション). 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌市.
- 16) 山本順司, 小菅智男, 他. 大腸癌肝転移切除例の予後因子：癌専門施設症例での比較解析(パネルディスカッション). 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌市.
- 17) 小出紀正, 小菅智男, 他. 症例13. 第39回日本肝癌研究会, 2003/6, 金沢.
- 18) 小菅智男, 他. 座長：パネルディスカッション 膵癌外科治療における補助療法. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003/5, 金沢.
- 19) 松野正紀, 小菅智男, 他. 座長：ワークショップ 膵癌に対する手術適応の再考と新しい治療法の開発. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌市.
- 20) 江川新一, 松野正紀, 他. 全国登録からみた通常型膵頭部癌のリンパ節転移様式とリンパ節郭清の意義. 第15回日本肝胆膵外科学会, 2003/5, 金沢.
- 21) 乙供 茂, 松野正紀, 他. Chemoradiationと塩酸 Gemcitabine を併用した膵癌に対する集学的治療. 第3回 宮城外科フォーラム(仙台), 2003/3, 仙台.
- 22) 元井冬彦, 松野正紀, 他. 切除膵癌における膵癌膵後方浸潤・剥離面癌遺残と補助療法の役割. (シンポジウム). 第15回 日本肝胆膵外科学会, 2003/5, 金沢.
- 23) 森田利奈, 松野正紀, 他. 遺伝性膵炎に膵癌を合併した一例. 第15回 日本肝胆膵外科学会, 2003/5, 金沢.
- 24) 阿部 永, 松野正紀, 他. 制限増殖型アデノウイルスを用いた膵癌に対する遺伝子治療. 第103回 日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 25) 乙供 茂, 松野正紀, 他. Double-mutated adenovirus(AxdAdB-3)と塩酸 gemcitabine を用いた膵癌に対する遺伝子治療. 第103回 日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 26) 原田昭彦, 松野正紀, 他. 膵癌におけるオステオポンチンの発現とその血管新生促進作用.

- 第 103 回 日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 27) 砂村眞琴, 松野正紀, 他. 膵癌における HO-1 発現の意義. 第 103 回 日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 28) 江川新一, 松野正紀, 他. 膵癌全国登録からみた Stage 4 膵癌の治療戦略: mass reduction の意義はあるか?. 第 58 回 日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 29) 江川新一, 松野正紀, 他. 過去 20 年間の膵癌登録データの新規約への変更と膵癌登録アプリケーションの作成. 第 34 回 日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 30) 土原一生, 松野正紀, 他. 膵癌に対する術中放射線照射を併用した樹状細胞を用いた免疫療法: 第 I 相試験 10 例の報告. 第 58 回 日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 31) 乙供 茂, 松野正紀, 他. 塩酸 Gemcitabine と制限増殖型 adenovirus を併用した膵癌に対する遺伝子治療. 第 62 回 日本癌学会総会, 2003/9, 名古屋.
- 32) 江川新一, 松野正紀, 他. 膵癌は樹状細胞の co-stimulatory molecule 発現を抑制し免疫応答から逃れている. 第 62 回日本癌学会総会, 2003/10, 名古屋.
- 33) 土原一生, 松野正紀, 他. 進行膵癌患者の樹状細胞は recall antigen に対する T cell 反応を抑制する. 第 62 回日本癌学会総会, 2003/10, 名古屋.
- 34) 羽鳥 隆, 他. 新臨床病期 (new CS) を用いた膵癌手術適応の再検討と術後免疫療法の可能性について. 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 35) 羽鳥 隆, 他. 進行度からみた膵癌取扱い規約第 5 版と UICC 第 6 版との比較. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 36) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 小膵癌の早期発見とリスクファクターに関する検討. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 37) 羽鳥 隆, 他. 切除可能膵癌の選択と免疫療法の現状について. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 38) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵腸吻合における No-stent 法の有用性の検討. 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 39) 羽鳥 隆, 他. 術前画像診断による IPMT と MCT の良悪性鑑別診断と手術適応, 2003/7, 東京.
- 40) 林 和彦, 羽鳥 隆, 他. 切除不能、再発膵癌に対する TS-1 による化学療法の検討. 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 41) 羽鳥 隆, 他. 膵癌の手術適応と術後免疫療法の現状について. 第 41 回日本癌治療学会総会, 2003/10, 札幌.
- 42) 清水公一, 羽鳥 隆, 他. 免疫細胞療法を用いた癌治療戦略. 第 41 回日本癌治療学会総会, 2003/10, 札幌.
- 43) 羽鳥 隆, 他. 膵管内乳頭粘液性腺癌 (IPMC) に対する縮小膵切除の適応と遠隔成績. 第 65 回日本臨床外科学会, 2003/11, 福岡.
- 44) 中山茂樹, 中尾昭公, 他. 膵癌における thymidylate synthase, dihydropyrimidine dehydrogenase 発現から見た術後補助化学療法- 5-FU liver perfusion chemotherapy と gemcitabine. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 45) 阪井 満, 中尾昭公, 他. 分子生物学的手法を用いた膵癌の血清診断. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 46) 出口智宙, 中尾昭公, 他. 第 5 版膵癌取扱い規約と UICC 第 6 版 TNM 分類における生存率の比較検討について (当教室膵癌 197 例における検討). 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 47) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 進行膵癌におけるオーダーメイド医療の確立. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 48) 金子哲也, 中尾昭公, 他. 3D-IPEUS よりみた

- 膵癌至適手術, 2003/4, 埼玉.
- 49) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 進行膵癌に対する 5FU 術後補助化学療法における TS, DPD の重要性・埼玉, 2003/4, 埼玉.
- 50) 金子哲也, 中尾昭公, 血管内超音波よりみた膵外神経叢浸潤の診断と至適手術. 日本肝胆膵外科関連会議 (第 15 回日本肝胆膵外科学会、第 32 回日本胆道外科学会、第 30 回日本膵切研究会), 2003/5, 金沢.
- 51) 金子哲也, 中尾昭公, 他. 門脈血管内超音波よりみた膵癌至適手術. 日本肝胆膵外科関連会議 (第 15 回日本肝胆膵外科学会、第 32 回日本胆道外科学会、第 30 回日本膵切研究会), 2003/5, 金沢.
- 52) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 進行膵頭部癌症例の手術適応と術後補助化学療法. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 千葉.
- 53) 出口智宙, 中尾昭公, 他. 第 5 版膵癌取り扱い規約と UICC 第 6 版 TNM 分類における生存率の比較検討について (当教室膵癌切除 193 例の検討). 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/7, 千葉.
- 54) 井上総一郎, 中尾昭公, 他. 現在の当科における stage IV 膵頭部癌症例の手術方針. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 千葉.
- 55) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. stage IV 膵頭部癌症例の拡大手術と術後補助療法. 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 56) 藤井 努, 中尾昭公, 他. 膵管内乳頭腫瘍の臨床病理学的検討とその治療方針—特に浸潤癌と非浸潤癌との対比を中心に. 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 57) 出口智宙, 中尾昭公, 他. 全膵十二指腸第 II 部切除術 (TPSD). 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 58) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 進行膵癌に対する集学的治療 (拡大手術・術中照射・術後補助化学療法). 第 45 回日本消化器病学会大会, 2003/10, 大阪.
- 59) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 進行膵癌に対する集学的治療 (拡大手術・術中照射・術後補助化学療法). 第 66 回日本消化器内視鏡学会総会, 2003/10, 大阪.
- 60) 吳 成浩, 中尾昭公, 他. 膵癌長期生存例の検討. 第 65 回日本臨床外科学会総会, 2003/11, 福岡.
- 61) 越川克己, 中尾昭公, 他. 術後直接成績と遠隔成績からみた高齢者膵癌の外科的治療方針. 第 65 回日本臨床外科学会総会, 2003/11, 福岡.
- 62) 伊東大輔, 今村正之, 他. TGF- β 長期刺激が温度感受性不死化膵上皮細胞の造腫瘍性を誘導する. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 北海道.
- 63) 久原 毅, 今村正之, 他. Ras と p53 不活化による正常膵上皮細胞の腫瘍化の研究—温度感受性不死化膵上皮細胞モデルを用いての検討. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 北海道.
- 64) 豊田英治, 今村正之, 他. 膵臓細胞株の浸潤転移における N-cadherin の関与. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 北海道.
- 65) 中嶋早苗, 今村正之, 他. 膵癌におけるカドヘリンの発現と上皮間葉系化生を介する転移への関与. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 北海道.
- 66) 森 友彦, 今村正之, 他. CXCR4 を介する浸潤転移機序を標的とした膵癌転移制御剤の開発, 2003/6, 北海道.
- 67) 増井俊彦, 今村正之, 他. 膵癌における KiSS-1 およびその受容体の発現の遊走能への関与. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 北海道.
- 68) 藤本康二, 今村正之, 他. 進行膵癌症例に対するゲムシタビンの使用経験—局所進行膵癌に対するゲムシタビン単独投与と放射線化学療法後ゲムシタビン投与の比較検討を中心として. 第 103 回日本外科学会定期学術集

- 会, 2003/6, 北海道.
- 69) 今村正之, 他. 膵癌治療の標準治療とは. 第 26 回日本医学会総会, 2003/6, 福岡.
- 70) 今村正之, 他. 小腸アミロイドーシス出血に対する膵温存全十二指腸切除術. 第 28 回日本外科系連合学会学術集会, 2003/6, 東京.
- 71) 藤本康二, 今村正之, 他. 切除困難膵癌に対する当科における治療方針の選択とその成績-ゲムシタビン使用症例を中心として. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 72) 土井隆一郎, 今村正之, 他. 切除適応膵癌の治療: 予後延長効果からみた切除適応. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 73) 上 和宏, 今村正之, 他. 膵癌細胞に対する X 線照射と survivin promoter 活性・mRNA 発現. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 74) 森 友彦, 今村正之, 他. 膵癌細胞の TRAIL 感受性制御における Smac の意義. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 75) 土井隆一郎, 今村正之, 他. StageIV膵癌に対する治療戦略. 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 76) 藤本康二, 今村正之, 他. 膵癌治療におけるゲムシタビンの標準治療剤としての可能性. 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 77) 藤本康二, 今村正之, 他. 著名なリンパ節転移を認めた分岐型 IPMT の 1 例. 第 39 回日本消化器画像診断研究会, 2003/10, 長野.
- 78) 久保田 勝, 門田守人, 他. XeCT を用いた膵癌放射線化学療法感受性予測の試み. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7; 千葉市.
- 79) 辻江正徳, 門田守人, 他. 切除不能膵癌に対する加速多分割照射法併用化学療法-第 I/II 相臨床試験-. 第 34 回日本膵臓学会, 2003/7, 千葉市.
- 80) 久保田 勝, 門田守人, 他. キセノン CT による膵癌組織血流量と放射線化学療法の効果に関する検討. 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 81) 辻江正徳, 門田守人, 他. 5FU による NT 発現脱亢進を利用した膵癌に対する GEM/5FU 併用療法の基礎的検討と臨床応用. 第 58 回日本消化器外科学会, 2003/7, 東京.
- 82) 中森正二, 門田守人, 他. StageIV 膵癌に対する治療戦略. 第 58 回日本消化器外科学会総会, 2003/7, 東京.
- 83) 冨田裕彦, 門田守人, 他. 膵臓癌における VCP(p97)発現の免疫組織学的検討. 第 92 回日本病理学会総会, 2003/4, 福岡.
- 84) 中森正二, 門田守人, 他. 切除可能進行膵癌に対する術前加速多分割照射併用化学療法の安全性および治療効果. 日本肝胆膵外科関連会議, 2003/5, 金沢.
- 85) 中森正二, 門田守人, 他. 膵癌に対する加速分割照射併用化学療法の組織学的治療効果. 第 62 回日本癌学会総会, 2003/9, 名古屋.
- 86) 辻江正徳, 門田守人, 他. 膵癌における 5FU, GEM の新たな感受性予測. 第 62 回日本癌学会総会, 2003/9, 名古屋.
- 87) 辻江正徳, 門田守人, 他. 膵癌に対する UFT と Gemcitabine(GEM)併用化学療法-ヒト膵癌細胞株 MiaPaCa-2 移植ヌードマウスモデルを用いた基礎的検討-. 第 103 回日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 88) 大内田研宙, 田中雅夫, 他. 放射線照射による癌間質相互作用を介した膵癌細胞の浸潤能促進. 第 103 回日本外科学会総会, 2003/6, 札幌.
- 89) 真鍋達也, 田中雅夫, 他. 膵癌の術後局所制御を目的とした NK4 遺伝子導入口腔粘膜上皮細胞シート. 第 103 回日本外科学会総会, 2003/6, 札幌.
- 90) 村上光彦, 田中雅夫, 他. 膵癌肝転移に対する NK4 遺伝子治療・脾注モデルにおける検討. 第 103 回日本外科学会総会, 2003/6, 札幌.
- 91) 大内田研宙, 田中雅夫, 他. 放射線照射は c-Met の発現増強を誘導し c-Met チロシンリン酸化と MAPK 活性を増強して膵癌の浸潤

- 能を促進する. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 92) 小倉康裕, 田中雅夫, 他. 膵癌に対するアデノ NK4 局所 1 回投与による抗腫瘍効果—同所移植モデルによる検討. 第 62 回日本癌学会総会, 2003/9, 名古屋.
- 93) 村上光彦, 田中雅夫, 他. 膵癌肝転移に対する NK4 遺伝子治療・脾注および腹腔内投与モデルにおける検討. 第 62 回日本癌学会総会, 2003/9.
- 94) 石川奈美, 田中雅夫, 他. 放射線照射による HGF/c-Met system を介した膵癌細胞の浸潤能促進. 第 62 回日本癌学会総会, 2003/9, 名古屋.
- 95) 金光敬一郎, 他. サイトケラチン免疫染色による膵癌の微小リンパ節転移検出の意義と今後の治療方針. 第 103 回日本外科学会総会, 2003/6, 札幌.
- 96) 金光敬一郎, 他. 進行膵癌に対する予防的拡大リンパ節郭清の意義はあるか. 日本肝胆膵外科関連会議 in 金沢 2003, 2003/5, 金沢.
- 97) 金光敬一郎, 他. 進行膵癌に対する周術期補助療法を用いた治療. 第 34 回日本膵臓学会大会, 2003/7, 幕張.
- 98) 生田義明, 金光敬一郎, 他. 膵癌肝転移例に対する動注化学療法. 第 58 回日本消化器外科学会, 2003/7, 東京.
- 99) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. Stage4 膵癌に対する肝転移の存在診断と治療戦略. 第 58 回日本消化器外科学会, 2003/7, 東京.
- 100) 上野秀樹, 他. 進行膵癌に対する新しい治療法の開発. 第 103 回 日本外科学会定期学術集会, 2003/6, 札幌.
- 101) 池田公史, 上野秀樹, 他. 肝外転移を有する肝細胞癌に対する FMP 療法の第 2 相試験. 第 39 回 日本肝癌研究会, 2003/6, 金沢.
- 102) 竹迫賀子, 上野秀樹, 他. 進行肝内胆管がんに対するシスプラチン、エピルビシン、5-FU 併用科学療法 (CEF 療法) の第 2 相試験. 第 39 回 日本肝癌研究会, 2003/6, 金沢.
- 103) 池田公史, 上野秀樹, 他. 肝外転移を有する肝細胞癌に対する FMP 療法の第 2 相試験. 第 41 回 日本癌治療学会, 2003/10, 札幌.
- 104) 森実千種, 上野秀樹, 他. 進行胆道癌患者における S-1 前期臨床第 II 相試験. 第 41 回 日本癌治療学会, 2003/10, 札幌.

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
小菅智男	切除可能膵癌に対する補助化学療法	戸田剛太郎, 松野正紀, 他	肝・胆・膵疾患の最新医療	先端医療技術研究所	東京	2003	362-367
網倉克巳, 松野正紀, 他	膵癌	後藤由夫	コメディカルのための臨床薬学	医薬ジャーナル	東京	2003	456-460
今泉俊秀, 羽鳥 隆, 他	膵管内乳頭腫瘍・嚢胞性膵腫瘍	跡見 裕, 炭山嘉伸, 他	消化器外科学レビュー2003	総合医学社	東京	2003	253-261
羽鳥 隆, 他	膵癌の悪性度と予後について	木村 健, 藤盛孝博, 他	消化器病のサーベイランス	新興医学出版社	東京	2003	270-277

雑誌

発表者氏名	論文タイトル	発表雑誌名	巻	ページ	出版年
Q.Xiong.H Kosuge T, et al.	Report of the 16th international symposium of the foundation for promotion of cancer research: Recent advances in pancreatic cancer.	Jpn J Clin Oncol	33	246-253	2003
Nunobe S, Kosuge T, et al.	Clear cell endocrine tumor of the pancreas which is not associated with von hippel-lindau disease: Report of a case.	Surgery Today	33	470-474	2003
Shimamura T Kosuge T, et al.	Dysadherin overexpression in pancreatic ductal adenocarcinoma reflects tumor aggressiveness: Relationship to e-cadherin expression.	J Clin Oncol	21	659-667	2003
Yano Y, Kosuge T, et al.	Combined hepatocellular and cholangiocarcinoma: a clinicopathologic study of 26 resected cases.	Jpn J Clin Oncol	6	283-287	2003
Duda D, Matsuno S, et al.	Restoration of SMAD4 by gene therapy reverses the invasive phenotype in pancreatic adenocarcinoma cells	Oncogene	22	6857-6864	2003
Furukawa T, Matsuno S, et al.	Potential tumor suppressive pathway involving DUSP6/MKP-3 in pancreatic cancer	Am J Pathol	162	1807-1815	2003
Lefter LP, Matsuno S, et al.	Inserting chromosome 18 into pancreatic cancer cells switches them to a dormant metastatic phenotype	Clin Cancer Res	9	5044-5052	2003
Nakao A.	Debate:extended resection for pancreatic cancer;the affirmative case	J HBP Surg	10	57-60	2003
Koizumi M, Imamura M, et al.	Increased PDX-1 expression is associated with outcome in patients with pancreatic cancer	Surgery	134	260-266	2003
Tsujie M, Monden M, et al.	Thiazolidinediones inhibit growth of gastrointestinal, biliary, and pancreatic adenocarcinoma cells through activation of the peroxisome proliferator-activated receptor γ /retinoid X receptor α pathway	Exp Cell Res	289	143-151	2003
Tsujie M, Monden M, et al.	Growth inhibition of pancreatic cancer cells through activation of peroxisome proliferator-activated receptor γ / retinoid X receptor α pathway	Int J Oncol	23	325-331	2003
Okami J, Monden M, et al.	An immunohistochemical study of Cyclooxygenase(COX)-2 expression in endocrine tumors of the pancreas	J Exp Clin Cancer Res	21	569-576	2003
Okami J, Monden M, et al.	Suppression of pancreatic cancer cell invasion by a cyclooxygenase2-specific inhibitor	Clin Exp Metastasis	20	577-584	2003
Okami J, Monden M, et al.	Patterns of regional lymph node involvement in intrahepatic cholangiocarcinoma of the left lobe	J Gastrointest Surg	7	850-856	2003
Taniguchi M Monden M, et al.	Parenteral nutrition decreases hepatic dihydropyrimidine dehydrogenase activity and modulates catabolism of 5-fluorouracil in rats	In Vivo	17	219-224	2003
Yamamoto S, Monden M, et al.	Monden M. Expression of UDP-N-acetyl- β -D-galactosamine: Polypeptide N- acetylgalactosaminyl transferase-3 (GalNAc-T3) in adenocarcinoma of the pancreas	Pathobiology	71	12-18	2004

発表者氏名	論文タイトル	発表雑誌名	巻	ページ	出版年
Hayashi H, Monden M, et al.	The association with expression levels of CA19-9 and N-acetylglucosamine 6 sialyltransferase 5 (s3Gal-T5) gene in human pancreatic cancer tissue	Pathobiology	71	26-34	2004
Kurahashi M, Tashiro S, et al.	Changes of lymphatic flow in case of pancreatic duct obstruction in the pig -as a model of pancreatic cancer-	The Journal of Medical Investigation	51	70-75	2004
Qian LW, Tanaka M, et al.	Co-cultivation of pancreatic cancer cells with orthotopic tumor-derived fibroblasts: fibroblasts stimulate tumor cell invasion via HGF secretion whereas cancer cells exert a minor regulative effect on fibroblasts HGF production	Cancer Letters	190	105-112	2003
Qian LW, Tanaka M, et al.	Radiation stimulates HGF receptor/c-Met expression that leads to amplifying cellular response to HGF stimulation via upregulated receptor tyrosine phosphorylation and map kinase activity in pancreatic cancer cells	Int J Cancer	104	542-549	2003
Ohtsuka T, Tanaka M, et al.	Comparison of quality of life after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy and Whipple resection	Hepatogastroenterology	50	846-850	2003
Manabe T, Tanaka M, et al.	Cell-based protein delivery system for the inhibition of the growth of pancreatic cancer: NK4 gene-transduced oral mucosal epithelial cell sheet	Clin Cancer Res	9	3158-3166	2003
Toyonaga T, Tanaka M, et al.	Blockade of constitutively activated Janus kinase/signal transducer and activator of transcription-3 pathway inhibits growth of human pancreatic cancer	Cancer Letters	201	107-116	2003
Inoue K, Tanaka M, et al.	Severe localized stenosis and marked dilatation of the main pancreatic duct are indicators of pancreatic cancer instead of chronic pancreatitis on endoscopic retrograde balloon pancreatography	Gastrointest Endosc	58	510-515	2003
Okino H, Tanaka M, et al.	Trans-tissue, sustained release of gemcitabine from photocured gelatin gel inhibits the growth of heterotopic human pancreatic tumor in nude mice	Clin Cancer Res	9	5786-5793	2003
Yamaguchi K, Tanaka M, et al.	Appleby operation for pancreatic body-tail carcinoma: report of three cases	Surgery Today	33	873-878	2003
Kanemitsu K, et al	Implication of Micrometastases of Lymph Nodes in Patients With Extended Operation for Pancreatic Cancer	Pancreas	26	315-321	2003
Morizane C, Ueno H, et al.	Phase II study of cisplatin, epirubicin, and continuous-infusion 5-fluorouracil for advanced biliary tract cancer	Oncology	64	475-476	2003
Tokuuye K, Ueno H, et al.	Small-field radiotherapy in combination with concomitant chemotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma	Radiother Oncol	67	327-330	2003

発表者氏名	論文タイトル	発表雑誌名	巻	ページ	出版年
小菅智男、他	通常型膵癌の進展度診断と術式決定—外科の要求	消化器画像	5	649-652	2003
小菅智男、他	補助化学療法:膵癌術後全身補助化学療法	外科	65	1275-1278	2003
小菅智男、他	補助療法の考え方	臨床外科	58	1505-1508	2003
小菅智男、他	膵癌の集学的治療-臨床試験による評価	肝胆膵	46	761-766	2003
小菅智男、他	手術方針についてのエビデンス:胆嚢癌手術における胆管切除の意義	外科	65	411-414	2003
小菅智男、他	膵癌に対する集学的治療	外科治療	90	299-302	2004
江川新一、松野正紀、他	わが国の現況—全国膵癌登録から—	臨床外科	58	1455-1461	2003
砂村眞琴、松野正紀、他	膵癌外科治療の現状とゲノム情報に基づく補助療法への展望	胆と膵	24	349-354	2003
福山尚治、松野正紀、他	膵臓疾患の腹腔鏡下治療	臨床消化器内科	18	705-710	2003
砂村眞琴、松野正紀、他	膵癌に対する化学療法レジメン—単独および放射線照射療法—	臨床外科	58	1075-1080	2003
江川新一、松野正紀、他	膵癌の集学的治療	医学と薬学	50	412-420	2003
砂村眞琴、松野正紀、他	膵癌に対する化学療法	癌と化学療法	30	1901-1908	2003
元井冬彦、松野正紀、他	膵癌に対する手術適応の再考と新しい治療法の開発	外科	65	669-674	2003
砂村眞琴、松野正紀、他	膵癌補助療法の現状と将来	外科治療	89	345-346	2003
福田 晃、羽鳥隆、他	膵頭十二指腸切除における門脈合併切除・再建—直接吻合とグラフト再建	手術	57	557-532	2003
羽鳥 隆、他	嚢胞性膵腫瘍の進展度診断と術式決定—外科の要求	消化器画像	5	661-673	2003
羽鳥 隆、他	腹側膵切除術の適応と術式	外科	65	1656-1660	2003
越川克巳、中尾昭公、他	高齢者の肝胆膵疾患診療の進歩-膵癌-	老年消化器病	15	43-50	2003
金子哲也、中尾昭公、他	門脈血管内超音波による膵癌の診断	消化器内視鏡	15	703-709	2003
中尾昭公、他	門脈血管合併切除を伴う膵頭十二指腸切除術	消化器外科	26	1741-1749	2003
土井隆一郎、今村正之、他	膵内分泌腫瘍(診断から治療まで)	日本内科学会雑誌	92	45-51	2003
今村正之、他	膵温存十二指腸全摘術の適応と術式	外科	65	1667-1670	2003
土井隆一郎、今村正之、他	消化器腫瘍治療における PET の実際-膵腫瘍を中心に	癌治療と宿主	15	49-57	2003
土井隆一郎、今村正之、他	膵癌の放射線化学療法と外科切除-多施設共同無作為化臨床試験より	胆と膵	24	655-660	2003
辻江正徳、門田守人、他	Gemcitabine 投与により肝転移が消失した膵癌術後肝転移再発の 1 例	癌と化学療法	30	297-301	2003

発表者氏名	論文タイトル	発表雑誌名	巻	ページ	出版年
永野浩昭、 門田守人,他	消化器癌に対する化学療法	癌と化学療法	30	1895-1990	2003
中森正二、 門田守人,他	切除不能・再発膵癌に対する Gemcitabine と UFT 併用療法の第 I 相試験	癌と化学療法	31	51-54	2004
宮本英典、 田代征記,他	当科における Stage IVb膵癌の治療成績	四国医学雑誌	59	30-34	2003
上野秀樹,他	肝内胆管癌, 科学療法の現状	肝胆膵	46	603-607	2003
上野秀樹	切除不能・再発膵癌の化学療法	コンセンサス 癌治療	2	32-35	2003

20030430

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。